

～ PTA 合同学習会「学校、保護者、地域でともに考えるいじめの防止」～

先日は遅い時間であり、豆も撒かないとダメなのに、巻き寿司を黙って食べないといけいないのにも関わらず、PTA 合同学習会にご参加いただいた保護者の皆様ありがとうございました。

残念ながら参加が叶わなかった保護者の方々もいらっしゃいますので、講演の内容を簡単にまとめてお伝えできればと思い、通信を HP に掲載させていただきました。



【講師】法律事務所つむぎ 大阪弁護士会所属 玉野まりこ 弁護士

※学校現場での問題や課題にも多く携わり、本校にも研修やいじめ授業でもお世話になっている方です。

① 『いじめ』の定義の移り変わり

「自分より弱い者に対して一方的に、身体的・心理的な攻撃を継続的に加え、相手が深刻な苦痛を感じているものであって、学校としてその事実（関係児童生徒、いじめの内容等）を確認しているもの。なお、起こった場所は学校の内外を問わないもの」

大きな事件が起きる度に変更されてきた。そのたびに、いじめを許してきた「言い訳」（「弱い者じゃないから」「相手がやり返しているから」「相手が悪いから」「1回きりだから」「悪意はなかった」「遊びだから」「これくらいのことなら…」）などを潰してきて現在の定義になっている。

〈具体的ないじめ事件〉

S61年：中野富士見中学いじめ自殺事件。教師までが参加しての葬式ごっこ「このままじゃ生き地獄になっちゃうよ」という遺書を残して中学2年生男子が自殺した。

H6年：愛知県の中学2年生男子がいじめを苦にして自殺した事件。これをきっかけに定義を改訂。

H25年：大津の中学2年生男子が自殺した事件をきっかけに、さらに定義が改訂され、「いじめ防止対策推進法」が制定される。

「児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの。」とする。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

② 『いじめ』の特質 <<その行為を「した者」と「された者」で意識に大きな隔たりがある>>

「した者」は軽く考えがち。「された者」は“自分が悪かったのかも”“これくらいの事を大事にしたくない”と思いがち。「された者」が被害を訴えたり、相談してきた時には、すでに事態は深刻になっているケースが多い。



- ・まずは被害、加害の二人のギャップを埋める必要がある。
- ・「謝ってもらった」が本当に解決になっているか？
- ・いじめの始まり（きっかけ）に誰かが気づき対処しなければ、いじめの芽が育ってしまう。

裏面へ続きます→

③ 『いじめ』を予防するために重要なこと

●文部科学省「いじめの態様8項目」

- ・冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる。
- ・仲間はすれ、集団による無視をされる。
- ・軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。
- ・ひどくぶつかられたり、叩かれたり蹴られたり、殴られたりする。
- ・金品をたかられる。
- ・金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。
- ・嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。



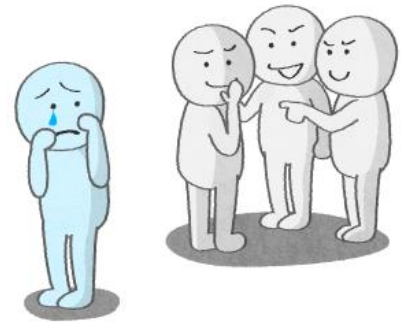
→ いじめをどう判断するのか聞くと、文科省の「態様」をあげる人が多い。
態様は行為であって、それだけに着目していたのではいじめを適切に認知できない。

『いじめ』かどうかの判断基準は「行為」ではなく「傷つき」に重点を置き着目する。

「これはいじめにあたるのだろうか？」ではなく、「この子は傷ついているのだろうか？」で考える。

★背後にある関係性にも注意する！！

- ・同じ行為であっても、関係性によって傷つくこともあれば、傷つかないこともある。
- ・一般的には傷つかない行為であっても、関係性によっては傷つくこともある。
- ・「この関係性の中でその言動がなされたら、どのような苦痛が生じるのか。」という思考で捉え、考える必要がある。



④ 子どもたちへのアプローチ

※学校での『いじめ』は、社会通念上の『いじめ』とは異なる。

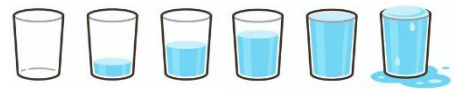
懸念事項



- ・こんなことまで「いじめ」になると、社会に適應する力を削いでしまう？
- ・こんなことまで「いじめ」であるとして名ざしされた子どもへの影響は？

『いじめ』と称するかが問題ではなく、少なくとも「思いやり」が欠けていなかったか？

※その行為が「いじめ」だと明言することよりも、傷ついた人がいたということは、何か別の言葉や行動を考えることが出来たかもしれないね、と話をする機会を大事にしてほしい。



⑤ 中学生向けのいじめ防止授業において

●『いじめ』は人それぞれが持っている「心のコップ」の状態によって変わると伝えています。



- ・人によって持っている「心のコップ」の大きさは違う。
- ・コップが溢れてしまう時は、大きい事が原因ではないかもしれない。最後はほんの一滴の些細なことで溢れてしまうかもしれない。
- ・元々大きいコップを持っている人でも、その日の体調や、家での事が影響してなど、日によっても人によっても、いつもあふれる量じゃなくても溢れてしまうこともある。
- ・コップに溜まっている水（イライラ、モヤモヤなど）は少なくもなる。
心がチクチクする言葉ではなく、あたたかくなる言葉を使うことを大切にしよう。